

第157回例会山行「富士山」

～緒方俊治君滑落死亡事故報告(速報)～

編集 井上達男

- ◆ 期日：2012年11月30日～12月3日
- ◆ 例会参加者：緒方俊治 L 有馬誠 居谷千春
居谷有里子(居谷の子女) 中川勝八郎
- ◆ 救援隊：井上達男 和光広典 酒井利直 山田健
大竹口誠治 小林功 長谷川浩



故 緒方俊治 会員
(佐藤小屋にて)

◆ 行動概要

- 11月30日 入山 佐藤小屋泊
- 12月1日 晴れ 風強し(突風のではない)
 - 06:40 全員で佐藤小屋出発 気温-8℃
初心者もあり、途中7合目で緒方、
中川が頂上を目指して他は下山
 - 11:00 下山組佐藤小屋帰着

以下登頂パーティ(緒方、中川)の行動記録、登山本部および救援隊の動き

- 12:05-12:15 本八合目
- 13:00-13:10 頂上
- 13:45 本八合目
- 14:10 白雲荘
- 14:30 頃 太子館 事故地点 事故発生
- 15:18 事故の第1報入電(以下各報とも、現地:居谷⇒登山本部:山田)
あわせて15:26 山田から井上へも連絡
- 16:10 救援ヘリコプターが強風のためリフティング出来ずに現場から退去
- 16:29 第2報 ヘリでの救出失敗、「心配停止」状態との連絡
- 16:40 緒方をツェルトを被せてピッケルで固定、捜索隊(警察)の指示で中川下山開始
- 17:00 第3報 ご家族への連絡方法と現地への移動等を協議
- 18:30 中川佐藤小屋帰着
- 19:08 第4報 まもなく警察救援隊が佐藤小屋に到着見込みとの連絡
- 19:40 山田が、緒方夫人、順子さんご子息二人をピックアップして鹿の子台
出発 (20:30 大津 SA にて長谷川ピックアップ)
- 20:44 第5報 本日の救援隊(小屋からの)出発見合わせ、明日朝発との連絡
- 25:00 緒方ご家族他、石和温泉(笛吹市)にある和光(例会にあわせて帰省中)
の親戚のマンションに到着、待機
- 12月2日 午前中晴
 - 07:30 早朝多治見出発の井上と笛吹市待機組が合流して富士吉田駅に集結
(和光(緒方の車)、山田、井上の3台に分乗)
 - 08:20 富士吉田駅着
 - 08:15 頃 ヘリが緒方を収容
 - 09:00 頃 佐藤小屋から四人が下山開始。東京組は救援を想定して登山装

- 備を準備して、酒井車に小林同乗、また電車で大竹口が富士吉田駅に合流
- 10:00 長谷川、小林で富士吉田警察署訪問、今後の段取り確認
 ・遺体はすでに警察署着、霊安室で処置中
 ・同行者の下山後、事情聴取実施、検死は翌日の見込み
 ・遺体との対面(ご家族他)は状況(損傷、凍結)を見て警察が判断
- 10:00 緒方の弟さんが横浜から車で駆けつける
- 11:30 馬返し下山の同行メンバー4名(中川、居谷親子、有馬)を和光がピックアップし、富士山駅着。緒方家族に挨拶後、富士吉田警察へ、すぐに聴取開始
- 12:00 ご家族他の宿泊先設定、移動(リゾートイン芙蓉)
- 13:30 中川、居谷の事情聴取終了、宿泊先に全員(15名)合流
- 14:40 警察からの連絡を受け 15:00 吉田警察署にて家族、救援隊全員が霊安室にて緒方の遺体に対面その後、追加事情聴取やご家族への状況説明など
- 16:00 現地にて解散
 ・東京組 車:酒井、中川、小林、電車:大竹口、有馬
 ・関西組 車:和光、長谷川、居谷娘 緒方の車にて
 ・宿泊 緒方さん家族3名、井上、山田、居谷(緒方さん弟は帰宅)

- 緒方の遺体が凍結のため検死が翌日に延期された
- 中川には事故のショックまた、指の凍傷、身体の打撲もあり、帰宅し病院へ行くように指示。

- **12月3日** 昨夜から雪でうっすらと積雪
 午前 緒方の遺体は病院に移され、レントゲン撮影などの検死作業と死亡診断を受ける。
- 16:00 すべての手続きが終了、遺体の引き取りOKとなり、順子夫人と次男さんを山田、居谷が付添って一足先に(山田の車で)帰宅の途につく。
- 17:00 長男さんが遺体搬送車に同乗して富士吉田署を出発。井上が見送り一連の救援活動を終結。

< 以上、時間記録は井上、長谷川、中川、居谷のメモによる。>

◆ 緒方の死亡診断

胸部打撲による肋骨骨折と内臓破裂によるショック死

右顔面に傷があったが骨折はなかった。脛骨も損傷なし。右肩は骨折していたが致命的ではなかった。そのほか擦り傷がいくつかあった。

◆ 事故概要 (中川勝八郎 手記)

頂上から中川先頭で下る。太子館の前を通り、5m程の少し急な下りが硬めだったので中川下った後、上を向いて緒方が下ってくるのを見ていた。2mぐらいに近づいてきた時、前向きに降りてきた緒方の右足がスリッパし落ちてきたので咄嗟に止めようと身体をぶつけたら中川は倒された。緒方は止まりかけたように感じた。すると自分のほうが滑りだし、5~6m程夏道を滑った後、岩にぶつかって飛び越えた雪面で止まった。(この間、滑落停止をしようとしていたと思う。)

立ち上がったが、緒方の姿が見えないのでぶつかったところに戻って吉田大沢側を見たが姿見えず。とりあえず緒方滑落の電話を佐藤小屋に入れる。少し吉田大沢側を下ってみると雪面に緒方の手袋が片方落ちていた。その先は岩交じりの斜面が続き最後が岩と

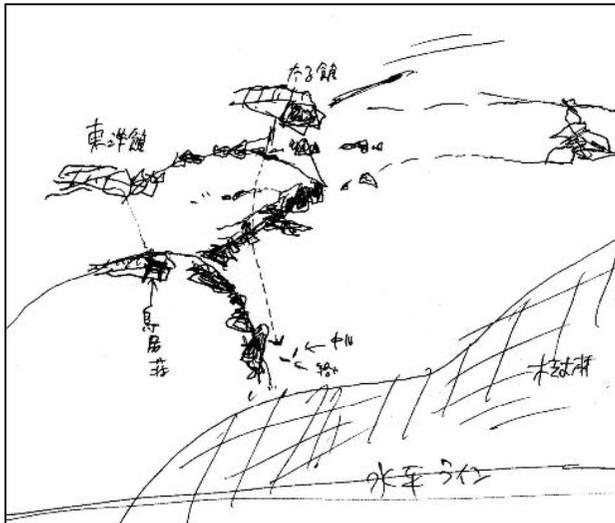
なってその先は切れ落ちて見えないので夏道に戻って下りながら探すと大沢に姿を発見。トラバースして緒方のところに行くところを頭を上にしてうつ伏せで雪面に倒れていた。上半身を動かして顔を横に向けると鼻と口から血を流しており、雪面に血がついていた。上を見ると雪面に滑落した跡はなく、血痕もなかった。数十メートル先が 20m 程(未確認)の岩壁になっているので、おそらく最後にそこからジャンプして落ちたところが固い雪ではなかったのでそこで止まったと思われる。

すぐに富士吉田警察からの電話が入り指示を受ける。

15:20 今から 30 分後にヘリコプター到着との電話が入る。ヘリは何度かホバリングを試みるもできず、16:10 頃居なくなった。その後富士吉田警察からの連絡で救援隊を出すので二次遭難を回避するため中川は下山するように指示を受ける。

16:40 緒方にツェルトを被せ、緒方のピッケルでツェルトを固定して下山することにする。

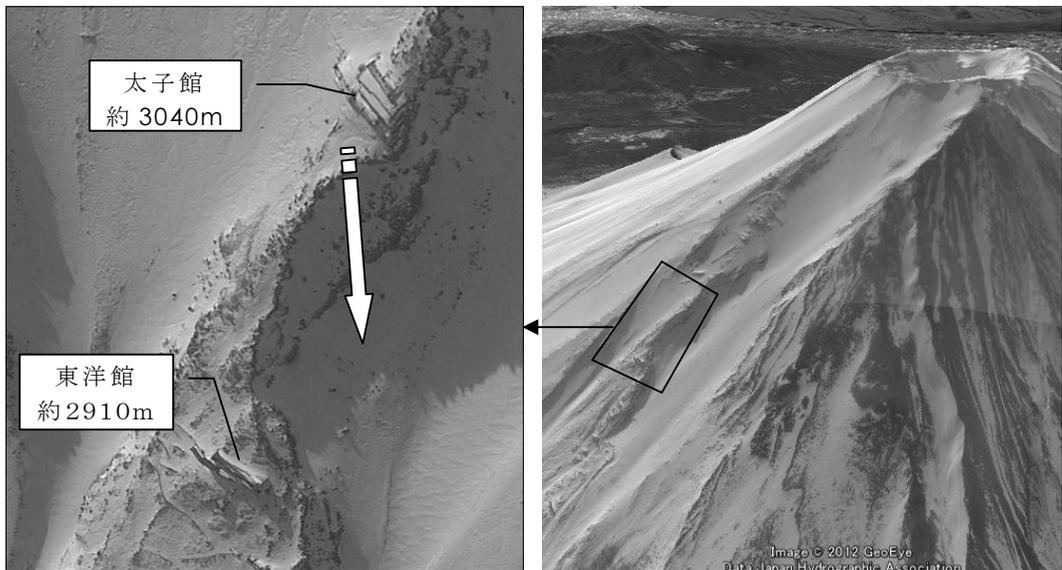
18:30 佐藤小屋



滑落現場の状況(推定)
～居谷によるスケッチ～
＜佐藤小屋付近から＞



救出ヘリ到着時の様子
＜事故翌日、佐藤小屋付近から＞



Google Earth 画像より（矢印は推定）

◆ 行動概要（居谷千春 手記）

12月1日

今回はベテランの中に新米(娘の有里子)が参加。皆どこまでいけるだろうか。

06:40 頃 佐藤小屋 5人全員で出発。非常に冷えていて -8°C ぐらい。

小屋出発後すぐ、居谷が新規購入したアイゼンの調子が悪く有里子を他の三名に託す。アイゼンの調整で10~15分。樹林帯では追いつかず、六合目のはるか上部に縦隊で進んでいるのが見える。風強く帽子とマフラーでは頬が凍るのでクーラカニの羽毛服についていた目出帽を顔と頭にセットしてやや落ち着く。

08:20 頃 六合目上部の小屋のところでは中川、有里子が待っている。有里子が体調不良ということで、有里子を受け取った。中川は先行の有馬、緒方パーティを追いかける。初心者の有里子にとっては結構なペースであったようだ。昔ながらの冷え性で身体が寒い寒いと言っている。この時点で頂上は勿論、八合目も無理と判断。行けるところまで行って帰ることにした。少しの時間だけ安全な斜面でストップ練習をした。そもそも雪が散り、吹きすさぶ富士山の写真を撮ることが有里子の目標だったので、頂上への強い執念なし。

09:25 七合目の小屋を過ぎ二つめの小屋で「ここまで」と決め、写真などを撮っていると有馬さんが下山中で合流。

09:35 下山開始。有里子の体調がもどってくる。居谷と有里子は9mのロープでアンザイレインした。空が掻き曇り大粒の雪が横殴りに襲ってくる。

11:00 頃 佐藤小屋到着。上部を心配していたが昼過ぎから晴れ渡ってきた。三人はチキンラーメンを食べてうとうと・・・、そんな中で事故は起こった。

14:44 中川が最初、居谷の携帯に連絡するも仮眠中ではず。

14:50 佐藤小屋の主人に電話がかかり「緒方さんが滑落した」という叫びに飛び起きる。あの慎重のかたまりの緒方さんが滑落するなんて信じられない。佐藤小屋のご主人(佐藤保氏)からすぐに警察に電話し救援要請。以降、警察からの事情聴取が続く。

住所とか生年月日とか、それより現在の状況と救援と対策が大事なのだと思いつながら対応。そしてヘリを出すことが決った。ただしヘリの出動には県知事の許可が必要だそう。中川との連絡は警察が直接行くということでこちらからの直接連絡は控えてほしいとの指示があった。

- 15:00 頃 有馬さんは六合目に向かって状況確認に出発。ただし、樹林帯を出たところまでとした。
- 15:15 一方、山岳会には、笛吹市マンション滞在中の和光氏へ電話。ヘリが飛ぶので病院に収容されることを見込んで駆けつけてもらうことにした。居谷の携帯はソフトバンクで話し出すとすぐに切れる。娘の有里子(ソフトバンク)と佐藤小屋の携帯(au)を借り、引き続き山岳会山田事務局長(今回の登山本部)との連絡を続けていく。そのころ、佐藤小屋のジュニア(和茂さん)が双眼鏡で現場を確認できると知らせてくれる。「く」の字の場所に一人が倒れ、一人が立っている。」
- 15:45 頃 上空にヘリが現れ三回ほど旋回するも風が強いのか、ホバリング体勢に入れない。燃料を消費するために何回か大きく旋回している、という話をご主人から入る。しかし、あと数回トライして帰っていく。
- 15:56 有馬さんに早く戻るように電話したが、なかなかつながらないが連絡ついて下山してもらおう。
- 15:58 中川の電話は不通、緒方携帯に電話するも中川と通話できない。後刻、佐藤小屋ご主人経由で警察が中川に下山指示したことがわかった。
- 16:15 頃 警察から連絡があり、地上救援隊結成準備中の話を聞く。警察だけで編成するとの話。富士吉田を17:00頃出発、19:00頃佐藤小屋到着とのことで、待ちの体制に入った。和光さんにもいったん笛吹市に帰ってもらうことにした。
- 16:30 頃 登山本部、山田事務局長に本日のヘリコプター搬送失敗に関する第2報。緒方家に状況を伝えるのは居谷とした。緒方自宅へ電話するも不在。玉置不二子さん(緒方婦人の母)より電話番号を入手して外出中の夫人に連絡がついた。山田事務局長は緒方家族と合流して富士吉田へ向かうことになった。
- 18:30 頃 中川が佐藤小屋帰着。とにかく彼が無事でよかった。初めて詳しい状況が判る。
- 19:00 前 スバルライン経由で警察の救助隊が入ったとの報があり、待ち始めるが、なかなか姿がみえない。
- 20:00 頃 救援隊(足立氏、佐藤氏、飯島氏、清水氏、芝村氏の5名)がやっと到着した。「本日の救助隊出動は無理、明日朝一番に再度ヘリを飛ばしその結果を見てその後の対応を決める」とのことだった。その後、居谷、中川、有馬で警察の事情聴取に対応。
- 21:00 事情聴取が終わり山田、和光両氏に状況連絡

12月2日

- 00:00 満点の星空、月光が明るく風はやんでいる。本日は佐藤小屋の客多く03:00頃から～06:00にかけて次々出発していく。
- 07:00 警察隊も出発準備を終えている。
- 07:30 望遠鏡にて現場確認 黄色のツェルトに包まれた緒方が見える。ヘリ「赤富士」出発の報が入る。
- 07:55 視界にヘリ。気温-2℃ 暖かく風少なし
今日は昨日と違ってピンポイントで攻めてくる。三回ほどホバリングトライ後、やっと人が降りてくる。しばらくして人が登っていくがそのとき黄色のツェルトが見えないのに気づく。現場へ一旦おりて崖から遠ざけ、引き上げやすくする処置をしたらしい。
- 08:15 ヘリのホバリングは先刻よりも右下へ移動し引き上げが成功した。ヘリが飛び去るの

を確認して小屋に戻り下山準備。そして小屋代の支払い。初日が5人分。二日目
が4人分ということに今回の遭難を現実として感じる。

09:00 佐藤小屋を出発。

10:35 馬返しで和光号に合流した。

以上、井上達男 編集まとめ

2012年12月2日 富士吉田 リゾートイン芙蓉 にて（後日、一部加筆訂正）

追記：井上記

☆ 緒方の滑落距離はおよそ 200m。太子館直下から吉田大沢に滑落し、2 か所の崖を落下、雪面にうつ伏せに叩き付けられた。

☆ 現地に残置された遺品

- アイゼンが滑落中に離脱している。場所は不明。
- 緒方のからだを覆っていたツェルトとピッケルはヘリコプターの風圧で飛ばされて回収されていない。

☆ 12月1日、AM8:00 中央高速笹子トンネル上り線でトンネル天井の崩落事故があった。笛吹市から富士吉田へ移動中の山田、和光、井上の車は、ご家族と一緒に5分といわず直前に通過した。無事だったのは緒方が守ってくれたのではと皆が彼に心からお礼の気持ちを抱いた。富士吉田警察署がトンネル事故対応に追われて当方の手続きが二日間に渡ってしまいましたが、救出については誠意を持って対応いただき、遺体収容が無事に終えることができました。

☆ 緒方俊治君の葬儀は三田の「メモリアルホールやすらぎ」にて12月5日に行われた。祭壇は富士山に模られた花いっぱいのものでした。にこやかにほほ笑んでいる彼の写真が今にも声をかけてくれそうで悲しみが一層深いものでした。彼は冬の定番であるクーラカンのリヤッケに包まれて棺におさめられていました。順子夫人の「天国でも楽しい山登りを」という計らいからでした。

合掌